

# 令和5年度第1回 城陽市地域公共交通会議

## 議題（2）

学校MM（モビリティ・マネジメント）の  
実施について（報告）

# 1. 学校MMの実施について

## 1-1. 取組の概要

小学生の頃から公共交通に関する意識付けを行い、親しみを持ってもらうことにより、自動車中心の社会からの転換と公共交通の利用促進を図ることを目的とし、公共交通を活用した授業を通じて環境や福祉、地域のことを学習するもの。

### ※MM（モビリティ・マネジメント）

渋滞や環境、あるいは、個人の健康等の問題に配慮して、過度に自動車に頼る状態から公共交通や自転車などを「かしこく」使う方向へと自発的に転換することを促す、一般の人々や様々な組織・地域を対象としたコミュニケーションを中心とした持続的な取組。

# 1. 学校MMの実施について

## 1－2. 令和5年度の実施内容

日時 : 令和6年1月25日(木)

対象 : 寺田小学校2年生 62名

授業内容 : ①講義  
城陽さんさんバスについて、マナーの確認、バスの乗り方、  
バスの工夫点、環境学習(地球温暖化)  
②体験学習  
体験乗車(「JR城陽駅」～「プラムイン城陽」の往復)  
車両見学(バスの工夫点について)  
③バス事業者との一問一答

配布物 : 城陽さんさんバス路線図・時刻表

# 1. 学校MMの実施について

1-3. 令和6年1月25日（木） 取組の様子

講義



体験乗車



車両見学



一問一答



# 1. 学校MMの実施について

## 1-4. 児童の感想（抜粋）

「車いすのひとも乗れるように入口にスロープがついていたり、座席が折りたためるようになっていることにびっくりした。」

「目が悪い人にも見えやすいように手摺がオレンジ色になっていて、みんなのことを考えて工夫されていることを知った。」

「バスの後ろに大きなエンジンがあってすごかった。」

「運転席の横に秘密のボタンがあって、悪い人が来た時に押したら警察が来ることを知った。」

「バスに乗れて楽しかった。また乗りたいと思った。」

「バスの運転手になりたいと思った。」

## 2. 実施後アンケート調査について

令和4年度  
取組分

### 2-1. 実施後アンケート調査について

公共交通に対する意識の変化や行動変容がみられたかを調査し、実施効果を把握するもの。

#### 令和4年度の実施内容

- 日時 : 令和5年2月22日(水)  
対象 : 寺田南小学校2年生 61名 (アンケート実施時は3年生)  
授業内容 : ①講義  
城陽さんさんバスについて、マナーの確認、バスの乗り方、バスの工夫点、環境学習(地球温暖化)  
②体験学習  
体験乗車(「寺田南小学校」～「近鉄寺田」の往復)  
車両見学(バスの工夫点について)  
③バス事業者との一問一答

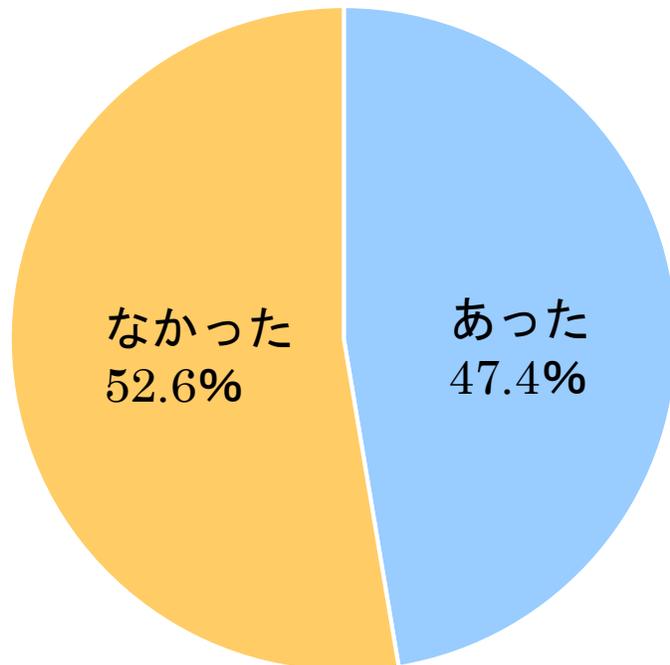


## 2. 実施後アンケート調査について

### 2-3. 調査結果

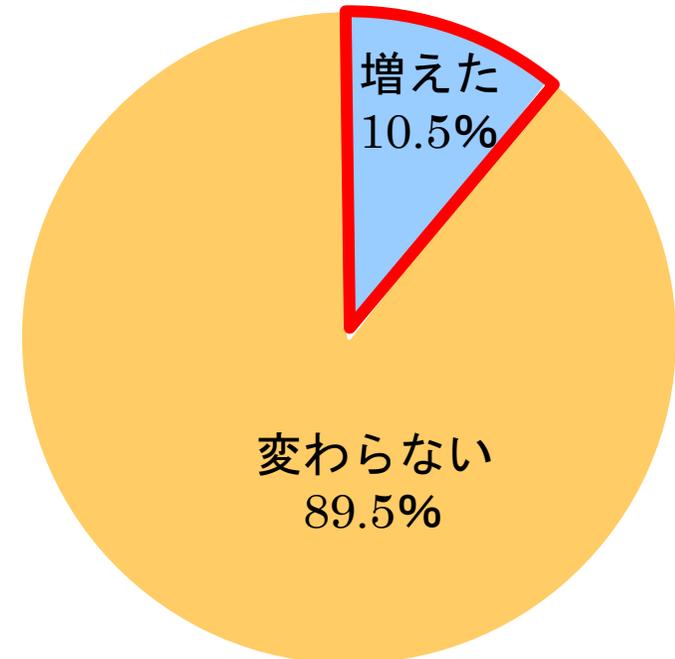
#### 質問1

「城陽さんさんバス」についての授業を受ける前に、「城陽さんさんバス」に乗ったことがありましたか。



#### 質問2

「城陽さんさんバス」についての授業を受けた後に、「城陽さんさんバス」に乗る回数は増えましたか。

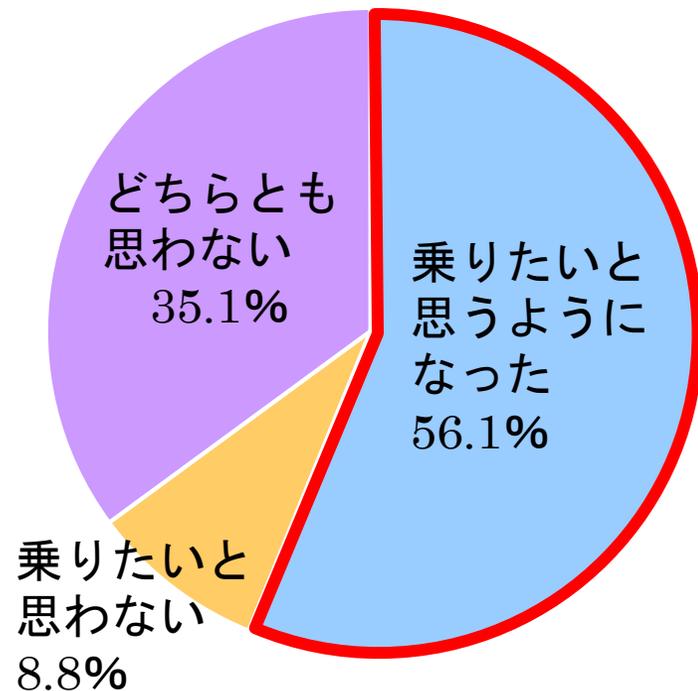


## 2. 実施後アンケート調査について

### 2-3. 調査結果

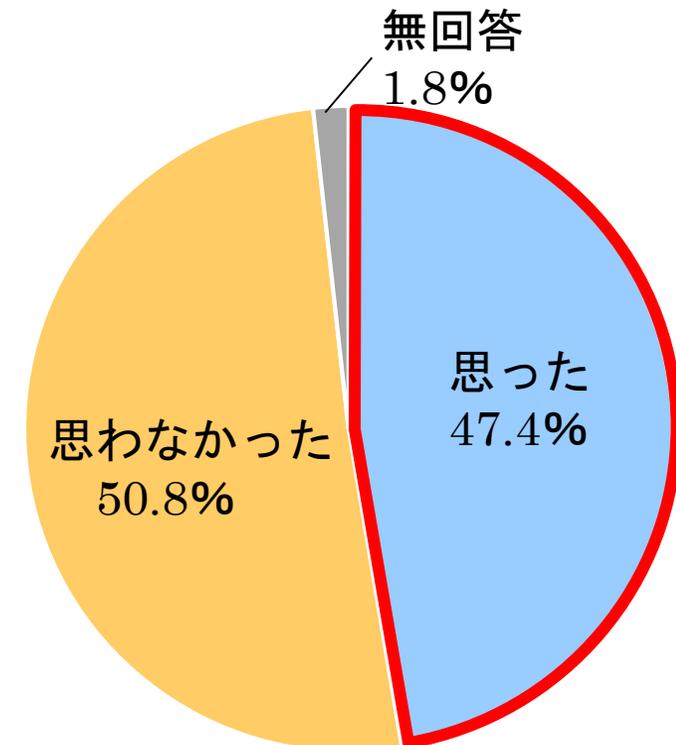
#### 質問3

「城陽さんさんバス」についての授業を受ける前よりも、おでかけするときにバスに乗りたと思うようになりませんか。



#### 質問4

バスの運転手さんになってバスを運転してみたいと思いませんか。

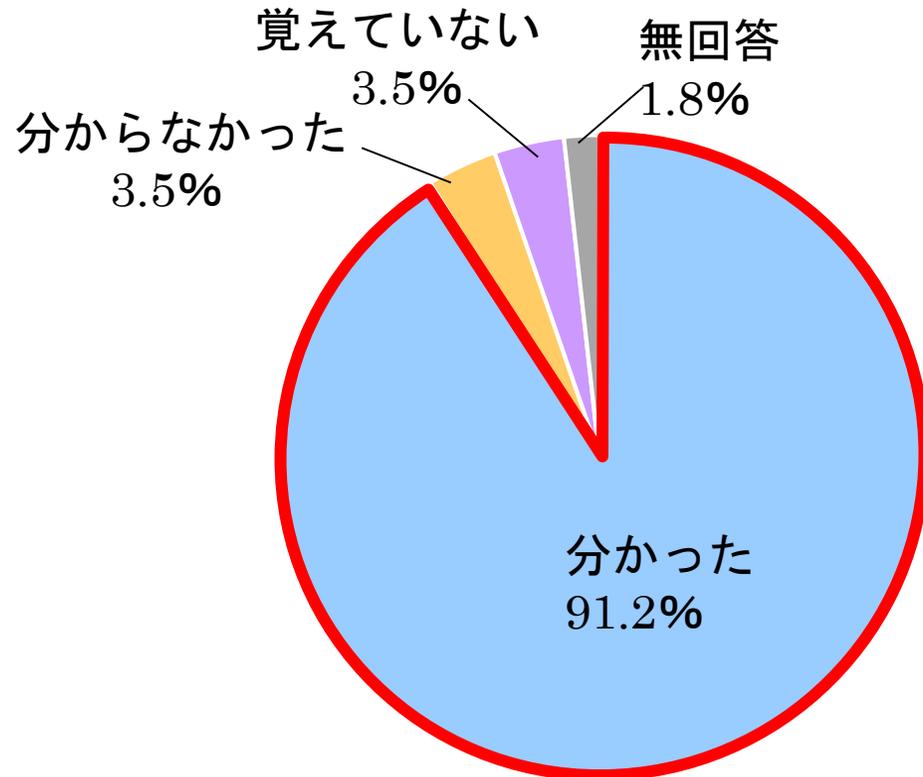


## 2. 実施後アンケート調査について

### 2-3. 調査結果

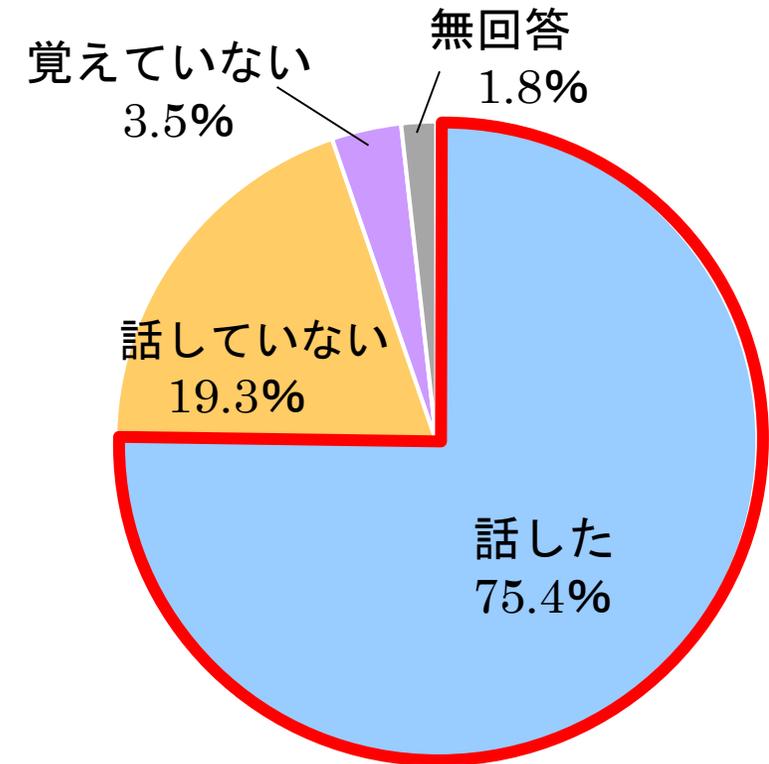
#### 質問5

クルマよりバスのほうが環境にやさしいことは分かりましたか。



#### 質問6

「城陽さんさんバス」についての授業で知ったこと・考えたことを家族にお話ししましたか。

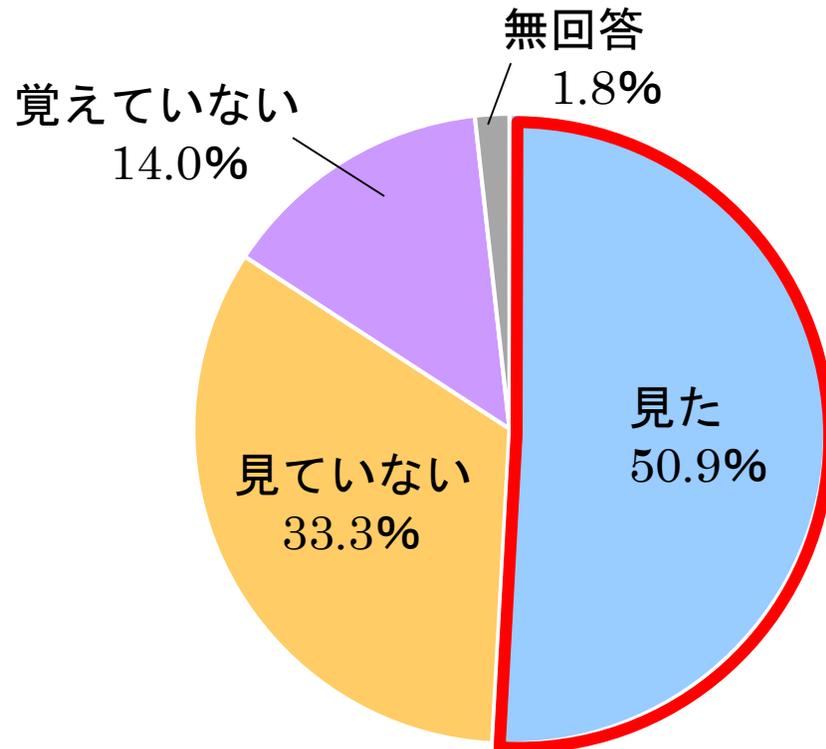


## 2. 実施後アンケート調査について

### 2-3. 調査結果

#### 質問7

城陽さんさんバスについての授業でもらった「交通ガイドマップ」を家族と見ましたか。



## 2. 実施後アンケート調査について

### 2-4. 調査結果まとめ

- ・ 学校MM受講前から約半数の児童が城陽さんさんバスを利用したことがあったことから、一定認知されていることが分かるものの、利用しなかった約半数の児童に対しては、本取組が利用するきっかけづくりになったのではないかと考える。
- ・ 公共交通に対する行動変容や意識の変化が見られ、利用促進に一定の効果があったことが分かる。
- ・ 運転手への興味・関心にも繋がり、運転手不足対策の一助となったのではないかと考えられる。
- ・ 環境問題に対する意識が非常に高く、公共交通と環境問題を関連付けて学習することに意義があったのではないかと考える。
- ・ 多くの児童が家族と授業内容について話したり、交通ガイドマップを見ており、環境や公共交通について家族と話し合うきっかけづくりとなったことがうかがえる。
- ・ 子供から保護者への伝達効果が得られ、家族でのお出掛けの際にクルマから公共交通への利用転換を促す取組としては効率的であったと考える。